

製品・技術開発

開発型企業として技術開発を推進

当社は、「全員参加の開発型企業」を目指し、技術交流を目的とした「開発フォーラム」を開催しています。この「開発フォーラム」には、開発部門だけではなく製造、営業、間接部門など全社各部門から多くの方が参加しています。また、開発をサポートする評価技術の充実も図っています。



目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

事業概要

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ 人財育成
- ▶ 頑張る社員を応援
- ▶ 安全・防災・BCP
- ▶ 品質保証体制
- ▶ 地域社会貢献
- ▶ TOMOEGAWAグループの活動

E 環境

G ガバナンス

その他

開発フォーラム & AWARD

2022年度はコロナ禍という状況は続いていましたが、会場での出席者を限定し、その様子を Web 中継する形を継続し、全 3 回開催しました。

第1回	開発フォーラム	2022年9月30日
第2回	開発フォーラム	2022年11月8日
第3回	AWARD授賞式	2023年2月21日

第 1 回の開発フォーラムは、「各事業部製品の品質管理や開発を支える評価装置の紹介」と題し、各事業部・技術本部の評価装置のスペシャリストからその活用の提案を含めて発表がありました。第 2 回の開発フォーラムは「未来を担う新市場、新製品に向けた取り組み」と題し、これからの技術開発の方向性にスポットを当て、新市場や新製品に向けた取り組みについて各担当者より発表がありました。



第 1 回 評価装置の紹介

第 3 回は、「AWARD 授賞式」を開催し、2022 年度の技術・製品開発活動の過程に於いて、成果に繋がる著しい改善や工夫の実施、発明・発見、プロセス変更等を表彰しました。総数 22 件の応募の中から「シミュレーション技術の新たな取り組み」や「新たな製造方法の確立」「当社の将来を担う革新的な新技術の展開」など、特別賞を含む 6 テーマ 14 名が受賞しました。会場では表彰状とトロフィーが授与され、受賞者が活動内容の発表を行いました。

これまでの常識では達成不可能と思われたことに挑戦した賞 (Break Through the Wall、Challenge、Innovative Approach、Outrageous Idea Award)、開発効率の向上に貢献した賞 (Short Cut to the goal)、これまで成し得なかった研究と活用を進め、パイオニアとしてその一步を踏み出した功績を称える賞 (Open an edge) などに惜しみない拍手が送られました。



パネルディスカッションの様子



賞	受賞者
Break Through the Wall	後藤 誠
	山田 哲也
	菅原 陽輔
Innovative Approach	梅原 整裕
	池谷 拓速
Break Through the Wall	高橋 英明
Challenge & Break Through the Wall	兵藤 了悟
	前島 暁
	太簀 真也
Short Cut to the goal	山路 舞香
Open an edge 特別賞	鈴木 雅康
	阿部 一智
Outrageous Idea Award	森内 英輝
	川島 宏介



TOMOEGAWA AWARD 受賞者の皆さん

目次
 マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

事業概要

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ 人財育成
- ▶ 頑張る社員を応援
- ▶ 安全・防災・BCP
- ▶ 品質保証体制
- ▶ 地域社会貢献
- ▶ TOMOEGAWAグループの活動

E 環境

G ガバナンス

その他

知的財産

知的財産活動を通じた人財育成

当社の事業を継続・発展させるうえで、知的財産を重要な経営資産の一つであると位置づけています。また、事業活動を実施する中で生み出される発明やノウハウ、ナレッジ等の知的財産を生み出す源泉は人財にあります。当社では、これら知的財産を生み出す人財に対して、教育計画を策定し、レベルアップを図っています。2022年度は、2021年度からの活動を継続し、以下の内容の社内研修を実施しました。

2022年度 社内研修実施内容

研修名	対象	内容
新入社員導入	新入社員	社会人として身に着けるべき知的財産の知識
特許調査教育	技術系	特許調査の重要性、調査の手段、調査実施のタイミング
発明提案書の書き方	技術系	特許制度における発明要件、発明提案書の書き方
権利化実務と外国出願	技術系	国内出願の権利化の流れ、外国出願概要
商標の基礎	事務系	事務系が身に着けるべき商標の知識

OJT や Off-JT による教育のみならず、知的財産管理技能検定の合格者に対する検定料補助を行い、自己啓発支援も積極的に取り組んでいます。

また、外部の有識者を交えた知財勉強会を、2022年度は3回開催しました。知財勉強会には、CTO、開発職、営業職、知的財産職が参加し、当社の知財活動のあり方について議論しました。このような活動を通じて事業活動における知財活用マインドの醸成、知財活用スキルの向上に努めています。

さらに、技術系社員が知財に触れる機会を増やすことを目的に、開発部門の会議体の時間を5分程度頂き、知財ワンポイントレッスンを継続しています。このような活動を通じて、人財育成に努めています。

評価技術

当社分析センターは、「抄紙・粘・接着、粉体・塗工」技術を核とする多岐にわたる製品群の研究開発、製造過程での問題解決、品質保証をサポートしてきました。

近年では、熱・電気・電磁波コントロール「iCas」関連分野の評価技術も加わり、幅広い分野への対応を行っています。

長年にわたり培ってきた分析・評価技術を活用し、お客様の問題解決をサポートしたいと、分析サービスの提供を行っています。

観察する

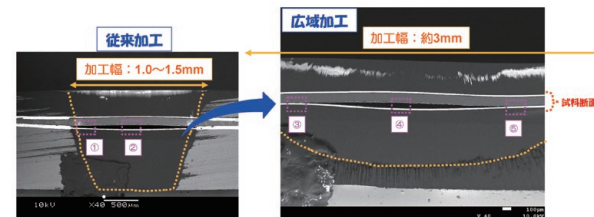
課題・問題解決のため、形態や状態を観察することはとても重要です。当社分析センターでは観察対象に合わせた前処理技術と各種顕微鏡を用いた観察により、目的に応じた形態観察を行うことができます。

断面化手法

電子顕微鏡 (SEM) を用いた断面観察を行うことで、層構成や異物混入時の状態について有益な情報を得ることができます。その際に重要となるのが断面化技術です。

当社分析センターでは複合材料等の断面化に有効な手法である、イオンミリング法*を用いていますが、従来の手法では加工幅が1.0～1.5mmと確認したい断面の一部であることが多く、複数回の加工が必要でした。そこで、従来の加工幅の2倍の約3mmまで加工できる手法を確立しました。一度の断面加工とその後の観察で、スピーディーにより多くの情報を得ることができます。

*イオンビームを試料に照射し、照射部がスパッタリングされることにより試料断面を平滑に仕上げる処理方法



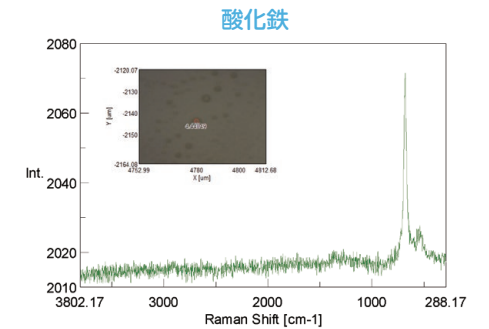
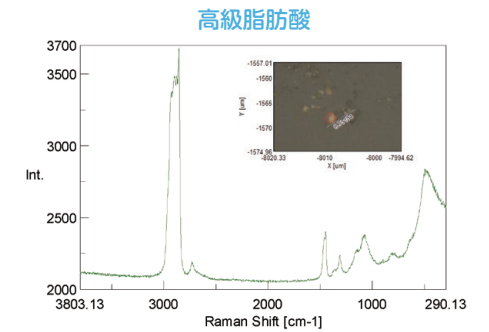
調べる

各製品・材料の主成分や、微量に使用されている成分の定性分析・定量分析を行っています。また、製品トラブルの原因となる付着物や異物の成分分析も行っています。

有機成分 / 無機成分の異物分析

ラマン分光法では、有機成分 / 無機成分の測定が可能で、様々な工業材料等の分析に用いることができます。ラマン分光装置による異物分析では、10μm以下の微小異物であっても非破壊で測定可能です。

得られるラマンスペクトルの波数情報から化学結合の種類、成分を推定することができます。また、化合物の結晶構造の違いも確認することができます。



人財育成

働きやすい職場、やりがいのある仕事で従業員が自己実現

当社では、事業運営の根幹は「人財」にあるという考えの下、企業の継続的発展と新たな成長領域にチャレンジできる人財の育成を行っています。

社員が自主的に自己啓発や能力開発に取り組み、各人の自己実現を達成できるようきめ細やかな仕組みを整え、社員一人ひとりのキャリア支援・成長支援等必要な施策を実施しています。



- 目次
- マネジメント
- 特集「持続可能な成長に向けて」
- 事業概要

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ **人財育成**
- ▶ 頑張る社員を応援
- ▶ 安全・防災・BCP
- ▶ 品質保証体制
- ▶ 地域社会貢献
- ▶ TOMOEGAWAグループの活動

E 環境

G ガバナンス

その他

人財育成への取り組み

当社が掲げるバリュー（価値感）は第一項に「誠実：我々は事業に対しても人に対しても誠実を旨とする」としています。

この「人に対する誠実」の一環として、当社は「一流人財の育成」を目指し、2022年度も継続して人財育成に取り組みました。

今後も“前向きな人への投資”を継続し、人財育成を行っていきます。

人財育成 / 教育制度

当社では、OJTでの人財育成を中心に、Off-JT研修として、資格階層別研修の他、職種別、テーマ別の研修やグローバル人財教育を実施するなど、目的に応じた人財育成体系を整えています。また、自己啓発の支援を積極的に行い、社員一人ひとりの成長をサポートしています。

教育体系図

	OFF-JT				自己啓発支援										
	階層別研修	職種別専門スキル研修		テーマ別研修			グローバル研修								
管理職層	マネジメント研修	特許・知財研修	法務研修	設備・生産系研修	研究開発系研修	経理・財務研修	営業研修	キャリア開発研修	コンプライアンス研修	メンタルヘルス研修	創業精神・理念浸透	海外要員教育	語学教育	通信教育	資格取得支援
	プレイングマネージャー研修														
	ポジティブリーダーシップ研修														
	新任管理職研修														
主任層	アセスメント研修														
	主任マネジメント研修														
	主任リーダーシップ研修														
	プレリーダー研修														
若手層	OJTトレーナー研修														
	レジリエンス研修														
	ジョブエンゲージメント研修														
	ロジカルシンキング研修														
新入社員	新入社員フォロー研修														
	新入社員研修														
内定者	内定者教育														

グローバル人財の育成

当社では、海外要員制度と称して、海外駐在員、または海外サポート要員として従事可能な人財の育成に力を入れ、英語や中国語をはじめとする語学教育及びグローバル人財教育をサポートしています。

また、海外で採用した外国籍の社員が日本でも活躍できるよう、日本語学習のサポートも行っております。外国籍社員が、海外要員として日本語学習に励み、日本語能力試験1級（N1）に合格するなど大いに成果を上げています。

この海外要員制度を卒業し、実際に海外関連業務に従事する者や、海外赴任する社員も複数存在しています。

今後も国内外で活躍できる人財の育成に努めていきます。

自己啓発の支援

社員の自己学習への支援の一環として、通信教育講座を開講しています。語学、ビジネス、資格取得など幅広い分野の講座を開講しており、講座の修了者には補助金を支給しています。社員のニーズに対応した、講座の選定や運営に努め、1人でも多くの社員にとって活用しやすい制度を目指して、継続的な改善を行っています。

目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

事業概要

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ **人財育成**
- ▶ 頑張る社員を応援
- ▶ 安全・防災・BCP
- ▶ 品質保証体制
- ▶ 地域社会貢献
- ▶ TOMOEGAWAグループの活動

E 環境

G ガバナンス

その他

人財育成

Close-up

研修内容の紹介

「ジョブエンゲージメント向上プログラム」

当社では、社員のモチベーションアップやジョブエンゲージメントの向上を目的として、若手社員およびその上司向けに研修を実施しています。

- ジョブエンゲージメント研修（若手社員対象）：仕事のやりがい・働きがいを再認識し、ジョブエンゲージメントの向上をはかる
- ポジティブリーダーシップ開発研修（上司対象）：上司として、部下・後輩にポジティブな影響力を発揮し、部下・後輩のジョブエンゲージメント向上をサポートする

2022年度はコロナ禍ということもあり、オンラインも活用し、感染対策を十分とった上で実施しました。



受講者の声

- 自身の「強み」や「やりがい（やる気スイッチ）」を把握する良い機会となった。
- 物事を前向きに捉える方法を学び、モチベーション向上につなげることができた。
- 今後のキャリアを考えたときに、自身が進む方向を決める材料の一つとしたい。
- 部下育成が上司の最大の仕事であることが理解できた。部下・後輩が、やりがいを持って仕事できるようにサポートしたい。
- 部下のやる気の源泉が何か、また強みをどのように活かしていくのかを考えることが重要だと感じた。
- 実際の実務の中で悩みや不安も多かったが、講師や他の受講者の意見を聞くことで安心できた。
- コロナ禍で久しぶりに同期や年の近い社員に会えたのは良い機会だった。
- オンラインでも問題なく受講できた。

自律的キャリア開発の支援

継続的に高い成果を生み出す組織を実現すると同時に、社員一人ひとりが能力を高め、成長していくことを願って、キャリア開発制度を導入しています。

キャリア開発シートの作成や面談を通じて、社員の長期的キャリアプランや望む働き方について上長・会社と共有しています。社員それぞれのキャリアプラン実現を目指し、部署異動を含めた育成計画の立案など、会社としての支援を更に強化していきます。



目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

事業概要

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ **人財育成**
- ▶ 頑張る社員を応援
- ▶ 安全・防災・BCP
- ▶ 品質保証体制
- ▶ 地域社会貢献
- ▶ TOMOEGAWAグループの活動

E 環境

G ガバナンス

その他

ダイバーシティへの取り組み

当社では、ダイバーシティへの取り組みとして、雇用や人事に関して、人種、国籍や性別、年齢、障がいの有無などで差別的な扱いをせず、均等な雇用の機会を提供し、多様性を尊重する風土づくりに努めています。

採用の考え方

当社の採用選考にあたっては、オープンに情報提供を行い、工場見学会の実施や個別面談などを通して、相互理解に努めています。納得した上で入社を決定できるような体制をつくり、入社後に安心して働ける環境づくりに採用活動時から努めています。

2022年度は、WEBを活用した面談や社員との座談会、工場見学等を実施し、コロナ禍でも相互理解ができる採用活動に努めました。

女性活躍を目指して

当社の新卒採用では、従来女性の応募者数が少なかったこともあり、採用人数に男女差がありましたが、近年は大幅に改善されています。2018年度から2022年度までの直近5年間では、新卒採用者に占める女性の割合は4割を超えています。

今後も、女性が活躍しやすい環境づくりに努め、性別にかかわらず活躍できる会社を目指します。

直近5年間の新卒採用者数

入社年度	全体	うち女性
2022年度	5名	2名
2021年度	3名	0名
2020年度	7名	1名
2019年度	13名	8名
2018年度	21名	9名
合計	49名	20名

高齢者の継続雇用

当社では、定年退職者の継続雇用制度を導入しており、希望する全定年到達者を再雇用することとし、社員のニーズに応えています。また、ベテラン社員の持つ豊富な経験・知識を活かし、技術やノウハウの若い世代への伝承や、後継者の育成に取り組んでいます。

人生100年時代と言われる現在、働き甲斐のある職場を長く提供し続けていくことがますます重要となります。今後も長く安心して働き続けることのできる環境づくりに努めていきます。

障がい者雇用状況

当社は、障がい者の職業生活における能力発揮・自己実現の場を安定的に供給することを目指し、継続的に障がい者雇用に取り組んでいます。現時点での障がい者雇用状況は、法定雇用率を達成しておりますが、さらなる雇用に向け新規採用活動に取り組んでいます。

今後も、企業の社会的責任を果たすべく、ハローワークへの求人募集をはじめ、支援センターなどのネットワークを利用して、継続的に採用活動に努めるとともに、障がい者の職業生活における能力発揮の場を提供し、安定的に安心して働くことのできる環境づくりを進めていきます。

通年及びジョブ型採用の実施

当社は新規学卒者一括採用にとらわれず、柔軟な採用活動に努めています。

新卒採用においては、秋入社をはじめ柔軟な入社時期を設定し、海外大学への留学生や外国籍人財の入社に対応しています。

また、特定のスキルを有する人財を募集する経験者採用の場合も、国籍・性別に捕らわれず、通年で募集しています。

労使の協調

当社では、昨今の厳しい国際競争の中、企業の存続と成長のために必要な諸施策を迅速かつ継続的に実行しなければならない経営環境にあります。

このような状況にあっては、労使の協力体制により課題を克服していくことが必要であり、その基盤づくりとして労使の相互理解と共通認識をより深めることがますます重要になっています。そこで、経営陣と労働組合との対話の場として、定期的な「労使会議」を実施し、労働環境のほか経営状況や施策などについても真摯に意見交換を行っています。



2023年4月入社新入社員

頑張る社員を応援

目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

事業概要

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ 人財育成
- ▶ **頑張る社員を応援**
- ▶ 安全・防災・BCP
- ▶ 品質保証体制
- ▶ 地域社会貢献
- ▶ TOMOEGAWAグループの活動

E 環境

G ガバナンス

その他

フットサル選手の活躍を応援しています！

当社は、従業員が所属する2つのフットサルチームの活躍を応援しています。

男子フットサル部「TOMOEGAWA iCas」は2016年に創部してから、静岡県中部リーグで戦ってきました。2021年度シーズンに中部リーグを勝ち抜き、県2部リーグ参入戦で見事優勝。2022年度シーズンは念願の県2部リーグで快進撃を見せました。

女子フットサルチーム「golrira TOMOEGAWA」は2007年に設立し、静岡市に拠点を置いて活動しています。創立1年目で静岡県女子フットサルリーグで優勝し、翌年以降は東海女子リーグに昇格した強豪チームです。惜しくも2022年度はメンバー不足により県リーグへの参入となりました。

両チームともに、TOMOEGAWAのPR活動も担っています。所属する従業員にはフットサルだけではなく、会社での活躍も期待しています。



「TOMOEGAWA iCas」メンバー(2023年) 「golrira TOMOEGAWA」メンバー(2023年)

フットサル部 「TOMOEGAWA iCas」

2021年度シーズンまではコロナ禍で試合が中止になることもありましたが、2022年度は予定していた全ての試合を開催。そして試合観戦も可能になりました。

初参入となった県2部リーグには、9チームが参加し熱戦を繰り広げました。リーグ戦を7勝1分と無敗で終了し、初優勝!! 県1部リーグへの昇格権を手にすることができました。追い求めていた「超攻撃的なチーム」で試合に挑むことができ、スピード昇格となりました。

2023年度シーズンは、県1部リーグでの戦いとなります。さらに上位の東海リーグ1部への昇格を目指して頑張りますので、今後とも応援よろしくお願いします。

女子フットサルチーム「golrira TOMOEGAWA」

golrira shizuoka (ゴリラ静岡) は2023年4月より当社の一社スポンサーとなり、チーム名を「golrira TOMOEGAWA (ゴリラ巴川)」に変更しました。メンバーの内、5名が新巴川加工(株)で働いています。

2022年度は、県リーグを全勝で優勝することができましたので、2023年度は東海リーグ復帰となります。

課題である決定力に磨きをかけ、東海リーグ制覇、さらには全日本女子フットサル選手権大会優勝を目指して頑張ります。

インタビュー

Q1. 仕事とフットサルの両立は? Q2. 今シーズンの目標は? Q3. 今期、仕事での目標は?

新巴川加工(株)

ファイバーマテリアル加工部 加工課 LSW 秋山 颯志

- A1. 夜勤の時は仕事前に練習のため少し大変ですが、会社や職場の理解があるので、両立はしやすい環境です。
- A2. 昨シーズンは県2部で優勝出来ました。今シーズンは県1部で優勝し、東海リーグ昇格が目標です。
- A3. 職長として、まずは安全意識の向上を職場全体で図ります。その上で、品質向上に寄与できる改善を沢山行っていきます!



仕事の様子



フットサルの様子

新巴川加工(株)

ファイバーマテリアル加工部 加工課 加工紙 竹本 凧沙

- A1. 週2~3回の練習には就業後の時間をやりくりして参加しています。休日は県外遠征もあります。会社としても応援してくれていて、仕事もフットサルも頑張れる環境です。
- A2. チームとしては、全日本大会優勝を目指し、日々練習に取り組んでいます!!
- A3. 配属されたばかりなので、早く業務を覚えて戦力になれるように頑張ります。



仕事の様子

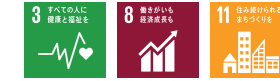


フットサルの様子

安全・防災・BCP

安全最優先の徹底でゼロ災へ

TOMOEGAWA では、重要課題の筆頭に「安全最優先の徹底」を掲げ、経営トップから現業職場の全員が参加し、無災害達成に向けて「ゼロ」災活動や「ゼロ」災職場形成に取り組んでいます。安全衛生活動には、国内はもとより海外のグループ会社も含めたグループ全体で取り組んでいます。また災害時の対応やBCPにも注力しています。



目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

事業概要

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ 人財育成
- ▶ 頑張る社員を応援
- ▶ **安全・防災・BCP**
- ▶ 品質保証体制
- ▶ 地域社会貢献
- ▶ TOMOEGAWAグループの活動

E 環境

G ガバナンス

その他

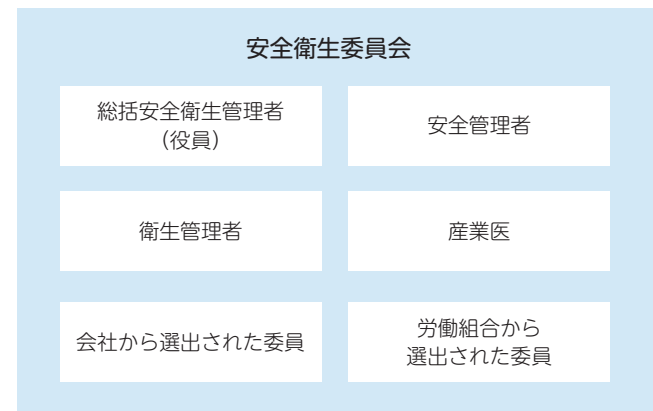
安全衛生の取り組み

安全衛生に関する取り組み / 体制

労働災害を発生させないために、労災事例の水平展開・再発防止策、労使で構成する安全衛生委員会の設置、安全衛生パトロール、安全衛生活動の基本である5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動などを実施し、さらなる安心・安全・快適な職場環境の実現に向けて、国内はもとより海外のグループ会社も含め取り組んでいます。

各事業所の安全衛生管理体制

当社グループの事業所では、従業員の安全・健康の確保と安全で快適な職場環境の形成を推進する体制として、安全衛生委員会を設置し、毎月1回開催しています。



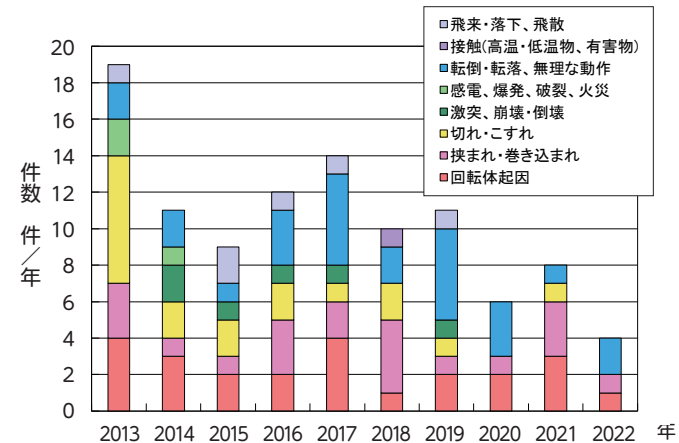
労働災害の推移

2022年度はTOMOEGAWAグループ全体で4件の労働災害が発生しました。ゼロ災とはなりませんでしたが、これは過去10年で最も少ない件数です。

2022年度は各職場の重大災害リスクを顕在化させるために、リスクアセスメントの徹底・隠れた危険個所の洗い出し及び対策の実施を強化したので、その効果が出てきたと感じています。今後も、リスクアセスメントやKYT（危険予知トレーニング）をはじめとした安全衛生活動を継続的に実施し、社員一人ひとりの安全意識向上と危険に対する感受性向上を図っていきます。

「安全は利益に優先する！ヨシ！ご安全に。」

TOMOEGAWAグループの労災発生状況
 (統計年、2013年～2022年)



安全審議委員会

安全で快適な職場作りを進める上で重要な会議体は、安全衛生委員会と安全審議委員会です。各事業部の製造グループマネージャーは両委員会に参加します。中核である製造部門を軸に安全衛生の本質審議・討議、指導・監督を行なっています。

安全審議委員会は6年目になります。本委員会は、「安全の最優先」に対する意識改革、発生した労災の再発防止および労災発生部門に対する指導・監督・是正勧告を行います。



安全第一

目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

事業概要

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ 人材育成
- ▶ 頑張る社員を応援
- ▶ **安全・防災・BCP**
- ▶ 品質保証体制
- ▶ 地域社会貢献
- ▶ TOMOEGAWAグループの活動

E 環境

G ガバナンス

その他

安全衛生の取り組み

安全教育の取り組み～安全道場～

静岡事業所には、不安全行動につながりやすい作業を模擬体験できる「安全道場」があります。「安全道場は現業部門中心に自分たちで作りに上げてきたもので、安全教育を週1回(2～3人)のペースで実施しています。

さらに、新入社員や中途社員、新たに異動となった社員の安全実技教育の場としても活用しており、当社の安全には欠かせない施設となっています。



新入社員安全教育の様子

事業所内の不安全箇所改善

事業所内の不安全箇所は安全担当部門が巡視し、能動的な改善活動として取り組んでいます。

2022年度は路面凸凹補修やスリップ防止の滑り止め塗装、見え難い標識や横断歩道の塗替えなどを積極的に取り組みました。



Close-up

第3・4回職域接種

厚生労働省から企業主催のコロナワクチン職域接種の実施要請があり、当社では第3回職域接種を静岡事業所診療所にて実施することを決めました。2022年4月から5月にかけて約950名の方に接種することができました。

4回目にあたる職域追加接種(オミクロン株対応)についても、厚生労働省から文書通達にて実施要請がありました。4回目の実施要件は、① 初回接種または3回目接種時に職域接種を実施した企業であること ② 500人以上へ接種を行うこと ③ 自治体における予防接種体制に影響を与えないよう、医師・看護師は企業自ら確保すること、が挙げられました。当社はいずれも該当しており、また国の方針である『地域における医療負担の軽減を図りつつ、オミクロン株対応ワクチン接種を促進する』に賛同することから、当社静岡事業所診療所にて実施することを決めました。2022年11月から12月にかけて、約600名の方に接種しました。この時期、各自治体ではファイザー社製のオミクロン株対応ワクチンを接種されていたので、企業会場に指定配布されたモデルナ社製を回避される方も多かったのですが、接種募集活動が実り600名もの方に接種いただけました。

当社はこうした活動へ積極的に参画し、社会の皆様のお役に少しでも立てるよう、今後も鋭意取り組んで参ります。



静岡事業所診療所内接種の様子

アルコールチェック

2022年4月から道路交通法(以下、道交法)が改正され、社有車の運転前後の運転者にアルコールチェックが義務化されました。特に、2022年10月1日からは、① 運転者の酒気帯びの有無の確認はアルコール検知器を用いて行うこと ② アルコール検知器を常時有効に保持すること、が義務付けられました。(ただしアルコール検知器の品不足のため、警察庁通達により当面延期)

道交法で定められている安全運転管理者選任事業所である静岡事業所では、安全運転管理者および安全衛生委員会の活動のもと、いち早くアルコール検知器の入手にも動き、それを使用して法令遵守の姿勢で臨んでいます。今では、社有車運転前後のアルコール検知器による飲酒チェックが習慣となり、自ずと飲酒運転絶対NOが強固に続けられています。



アルコールチェッカーでアルコール検出ゼロ確認

目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

事業概要

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ 人財育成
- ▶ 頑張る社員を応援
- ▶ **安全・防災・BCP**
- ▶ 品質保証体制
- ▶ 地域社会貢献
- ▶ TOMOEGAWAグループの活動

E 環境

G ガバナンス

その他

防災の取り組み

事業所の防災（静岡県）

静岡事業所

2022年12月13日に「身の安全確保」、「避難行動」を身に着ける目的で、総合防災訓練を実施しました。事前準備としては、各職場で身の安全を確保する場所の再点検や、「避難経路」、「一次及び二次避難場所」の再確認等を行い、訓練については昨年の反復訓練として、ステップ1（地震直後の安全確保）、ステップ2（避難行動）、ステップ3（安全確認）に重点を置いて行いました。また、災害対策本部では従業員の安否確認情報を迅速に収集する事を目的として、各職場の点呼結果の集計訓練と、安否確認システムによる安否確認メールの返信集計結果の確認を実施しました。

今回も、清水事業所と合同訓練を行い、災害発生時に携帯電話が繋がりにくくなることを想定し、通報連絡班が無線機を使用して避難状況を確認する訓練を実施しました。本部隊の消火班については、火災発生時に対応出来るように、年3回消防車の取り扱いおよび放水訓練を継続して実施しています。



災害対策本部での訓練



各職場の点呼

清水事業所

清水事業所も2022年12月13日に、地震による浸水被害を想定した総合防災訓練を実施しました。静岡県第四次被害想定では、レベル2（南海トラフ巨大地震）の地震が発生した場合、清水事業所は津波浸水区域となっていて最大約1.2mの浸水が想定されます。清水事業所では、この被害想定を踏まえて、総合防災訓練を実施しています。

静岡事業所と同様に、訓練については昨年の反復訓練として、ステップ1（地震直後の安全確保）、ステップ2（避難行動）、ステップ3（安全確認）に重点を置いて実施しました。

今回も静岡事業所と合同で訓練を行い、清水事業所の避難状況等の集約結果を、通報連絡班が無線機により静岡事業所に伝える通信訓練を実施しました。消火班については、屋外消火栓を使用した放水訓練を継続して行っています。

また、清水事業所はすぐ側に流れている巴川の氾濫に備えて、建物の出入り口等に止水板、防水シートを取り付ける水害対策の訓練も実施しました。



無線機による通信訓練



水害対策訓練

事業所の防災（東京都）

東京本社

2022年10月17日に、本社のある京橋トラストタワー内にて57名が参加して、防災訓練を実施しました。自衛消防隊の事前訓練は、密集を避けるためWeb会議により3日間実施しました。

2021年度から、新型コロナ禍のため全館一斉の合同訓練は行わず、各フロアごとで個別訓練を実施しています。2022年度も一斉の合同訓練は行わず、全館放送による地震防災訓練と、各フロア毎の防火訓練を実施しました。



目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

事業概要

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ 人財育成
- ▶ 頑張る社員を応援
- ▶ **安全・防災・BCP**
- ▶ 品質保証体制
- ▶ 地域社会貢献
- ▶ TOMOEGAWAグループの活動

E 環境

G ガバナンス

その他

BCPの取り組み

当社は、自然災害・テロ・地震・火災等の緊急時においても、早期に復旧し事業を継続するために「事業継続計画」(Business Continuity Plan : BCP) を策定しています。

特に 2011 年 3 月の東日本大震災以降では、主要事業および製品の優先復旧順位を再検討し、必要な原材料のリストアップ、原材料メーカーへの震災時対応の調査確認、リスク分散のための海外生産を含めた生産拠点の分散化を進めてきました。

近年では、頻発する地震、ゲリラ豪雨・大型台風等の豪雨災害発生確率の増大など、災害リスクは増大しています。なお、新型コロナウイルスの感染状況は 2023 年 5 月時点においては、新規感染者数、重傷者数は低下傾向が続いていますが、引続き状況推移に留意して対応する方針です。

これら想定される幅広いリスクに対し、実際にこれらを推進するための組織的な対応など、必要な検討を進めています。

Close-up

災害対策組織の取り組み

静岡・清水事業所では、日頃から事業所全体で防災活動に取り組むための「災害対策組織（自衛消防組織）」が編成されています。この組織は、有事の際は初期消火活動・被災者の救出・応急手当といった活動を行うなど、非常に重要な役割を担っています。

静岡事業所では消防ポンプ車を 1 台保有しております。本部隊の消火班は、火災発生時に速やかな消火活動が出来るよう、年 3 回消防ポンプ車の取扱い訓練および放水訓練を実施しています。



2023年1月
静岡事業所 本部隊消火班 出初式の様子

二酸化炭素消火設備の法令改正対応

全国で二酸化炭素消火設備に係る死亡事故が相次いで発生したことをうけ、消防庁は、二酸化炭素消火設備に係る政省令の改正等を行いました。

今回の改正では、標識の設置・二酸化炭素消火設備制御盤取扱い説明書の備え付け・閉止弁の設置が求められています。

当社におきましては、一部の危険物施設やクリーンルームに二酸化炭素消火設備を設置しておりますので、政省令の改正を受け、必要となる対応を実施しています。



2023年2月
静岡市消防局 二酸化炭素消火設備立会確認の様子

品質保証体制

マネジメントシステム運用で結果を出す

TOMOEGAWA では、世界標準の品質マネジメントシステム (ISO9001) と環境マネジメントシステム (ISO14001) を運用して、お客様や地域の皆様を含むステークホルダーへ事業活動を通じご満足いただけるように、業務品質向上と地球環境へのさらなる配慮を継続して行っています。



- 目次
- マネジメント
- 特集「持続可能な成長に向けて」
- 事業概要

ISO マネジメントシステム運用

「再発防止^{※1}」の体制から「未然防止^{※2}」の体制へ

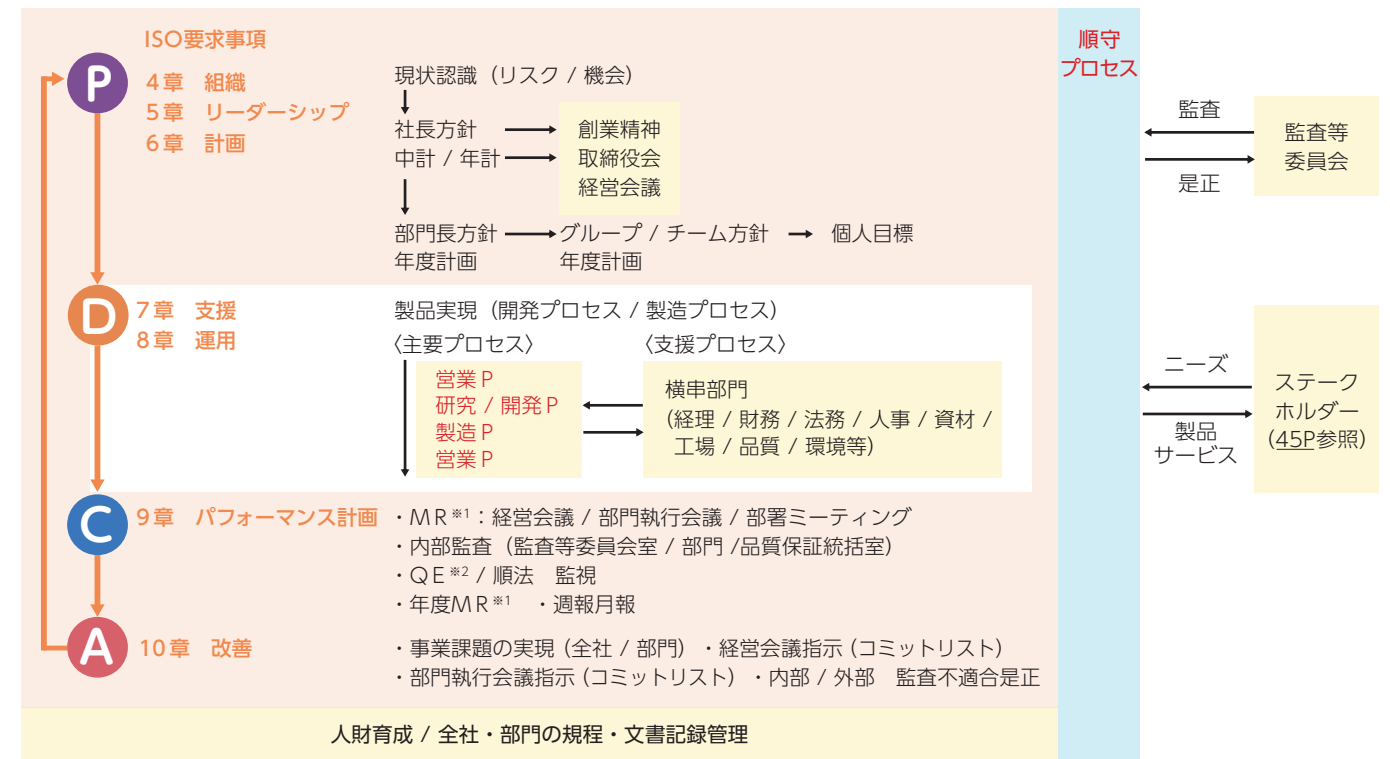
当社は、「ISO9001:2015」、「ISO14001:2015」を取得・維持しており、マネジメントシステムは事業環境に合わせて見直し、運用を行っています。より良い仕事の仕組み構築のためのルール作りや改訂、内部監査によるチェック体制を強化し、ISO マネジメントシステムの継続的改善をしております。

また、不都合発生時には、再発防止のルールに従い、修正、原因究明～水平展開するように対策を進めております。

最近、当社では自動車関連の開発や自動車業界のお客様からのお問い合わせが増加しています。これまでのお客様に加えて、新しくお付き合い頂いている自動車業界のお客様に、安心と安全についてご満足いただくため、現在当社のベースとなっている ISO9001/14001 の体制に加えて IATF16949^{※3} に準じる体制作りを全社プロジェクトとして継続して進めています。

- ※1 再発防止 … 根本原因を見極め対策することにより、問題を再発させないこと。
- ※2 未然防止 … 先を読み、想定される問題に対してあらかじめ手を打つこと。
- ※3 IATF16949 … IATF (International Automotive Task Force: 国際自動車産業特別委員会) が作成したものであり、その内容は「欠陥の予防」と「バラツキとムダの削減」を達成するための自動車産業の国際的な品質マネジメントシステムとなっています。ISO9001:2015 が前提にあり、セットで運用されます。

当社マネジメントシステムの体系図



※1 MR: Management Review
 ※2 QE: Quality and Environmental Management System

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ 人財育成
- ▶ 頑張る社員を応援
- ▶ 安全・防災・BCP
- ▶ **品質保証体制**
- ▶ 地域社会貢献
- ▶ TOMOEGAWAグループの活動

E 環境

G ガバナンス

その他

地域社会貢献

グループを挙げて成長へ邁進

TOMOEGAWA では、積極的な交流・対話を通じて、事業活動への理解を深めていただくとともに、地域社会の活性化に向けてさまざまな取り組みを展開しています。TOMOEGAWA がその地域にあることにより、ステークホルダーの皆様へ愛される企業を目指して活動しています。



- 目次
- マネジメント
- 特集「持続可能な成長に向けて」
- 事業概要

地域貢献活動

清水エスパルスをサポート

当社は、広告協賛等を通じて、「Jリーグ「清水エスパルス」」のサポートを長年続けています。

これは、清水エスパルスのホームタウンである静岡市に当社の事業所があることと、清水エスパルスの基本理念と共に掲げられている「スポーツを愛する人々に支えられる地域のシンボルとして、夢を創造しつづけます」に賛同したことによります。

2023 年度も、引き続き清水エスパルスのホームグラウンドである「IAI スタジアム日本平」に TOMOEGAWA のアドボードを掲出し、清水エスパルスを応援します。



IAI スタジアムでのホームゲーム



TOMOEGAWA アドボード

清水エスパルスにとって創設 30 周年の 2022 年は記念すべき 1 年でした。2022 年 7 月 2 日に国立競技場で開催された記念マッチにも協賛しました。



国立競技場での記念マッチ

環境保全活動への参加

当社は、静岡市環境保全推進協会に加盟しています。同協会は静岡市内に住所を有するおよそ 120 の事業所で組織された団体で、地球環境、地域環境の保全を推進するためのさまざまな活動に取り組んでいます。

2022 年度はコロナ感染症の流行で見合わせていた保全活動が 3 年ぶりに再開され、当社は静岡市清水区三保にある三保真崎海岸の海岸清掃（2022 年 6 月 4 日）と、三保松原海浜公園付近に植樹されているマツの下草刈り（2022 年 6 月 25 日、10 月 22 日）に参加しました。

海岸清掃には当社を含め 36 社、369 名が参加し、45L ゴミ袋で可燃ごみ 27 袋、不燃ごみ 1 袋を回収しました。



海岸清掃の様子



下草刈りの様子

清掃活動に参加した従業員からのコメント

目につく大きなゴミはもちろんですが、砂にまぎれた小さなプラスチックがあり、ニュースなどで報道されている環境課題の 1 つでもあるマイクロプラスチックについて直接考えさせられる機会になりました。まずは、事業所内や家庭においてこれはゴミか？資源になるのでは？と考えることやゴミは指定の通りに捨てるなど、自分が取り組めることを徹底していきたいと思います。

献血活動

当社は、定期的に献血活動に協力しています。2022 年度は、徹底した新型コロナウイルス感染症対策が行われる中、静岡事業所では 6 月と 12 月、清水事業所では 9 月と 3 月に実施されました。

輸血用血液の在庫量を適切な水準で維持していくには、毎日 14,000 人の献血者の協力が必要になるそうです。今後も継続して献血活動に協力していきたいと思います。



静岡事業所での献血の様子（2022 年 12 月 20 日）

E 環境

G ガバナンス

その他

目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

事業概要

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ 人材育成
- ▶ 頑張る社員を応援
- ▶ 安全・防災・BCP
- ▶ 品質保証体制
- ▶ **地域社会貢献**
- ▶ TOMOEGAWAグループの活動

E 環境

G ガバナンス

その他

地域社会貢献

道路愛護団体としての活動

毎月、静岡事業所、清水事業所の両事業所において、地域貢献活動の一環として清掃奉仕活動を実施しています。工場周辺の美化維持のため、静岡事業所では第3水曜日、清水事業所では第2金曜日を一斉清掃日として工場周辺の道路・歩道等を清掃しています。このような活動が静岡市の「道路サポーター制度」に登録され、事業所周辺地域の美化活動の一助となっています。



清掃活動の様子

近隣地域への貢献

ステークホルダーである近隣地域の方々との交流も、大切な企業活動のひとつです。当社は近隣地域の活動に積極的に参加しており、近隣住民の方々との交流を大切にしています。

例えば、各自治会の連合会が季節ごと主催する『交通安全県民運動 立哨』や自治会主催の『交通安全運動 立哨』に参加し、自治会員の皆様と一緒に地域の交通安全の啓蒙活動を行っています。この他にも、隣接する中学校の入学・卒業式、地域運動会、地域お祭りなど、さまざまな地域イベントに積極的に参加しており、近隣地域の皆様と共に地域活性化の一助を担っていきたいと考えています。



立哨の様子

Close-up

清水事業所での給水活動

2022年9月23日からの台風15号の影響で、6万世帯以上の大規模な断水が当社の清水事業所がある静岡県静岡市清水地区で発生しました。断水でお困りの近隣住民の方々に、9月25日午後から9月30日にかけて生活用水として工業用水の提供支援を行いました。できる限り多くの方々にご利用いただけるよう、清水事業所のTOMOEGAWAグループ従業員を中心として、24時間利用可能な蛇口の設置や大容量の飲料水用簡易水槽「フジコン[®]」を利用するなどして対応しました。

地元の入江1丁目自治会の皆様をはじめ、清水地区の一般家庭、介護老人保健施設の方々にもご利用いただき、地域の皆様から多くの感謝の言葉をいただきました。この取り組みに対して、2023年2月20日には入江1丁目自治会より感謝状もいただきました。

※フジコンとは…TOMOEGAWAグループ企業の三和紙工㈱が販売している、自立する液体用クロスコンテナ。軽量でコンパクトに収納でき、災害時の飲料水や生活水のストックタンクとして使用できます。



三和紙工㈱製の「フジコン」



設置した「フジコン」



飲料水を提供している様子



自治会から贈られた感謝状

インタビュー

総務コンプライアンス統括室
小泉 大輔



2022年9月25日(日)の朝、従業員から「清水地区で断水が起きている。会社で何かフォローできないか。」という連絡がありました。直ぐに清水事業所のインフラ担当者に連絡を取り、工業用水に問題なき事を確認した上で、総務グループマネージャーに給水を提案～実施の流れになりました。

やると決めてからの動きはとても早かったです。休日にも関わらず、13時には電材・設備技術・人事・三和・総務の関係者が集結し、16時には給水できる状態になりました。従業員には電話で、地域の方には町内会を通じてお知らせ頂きました。

その後は、予想以上に沢山の方が給水に来られたこともあり、会社としても人数をかけて給水体制を敷くことになりましたが、清水事業所の皆さんにご協力頂き、大きな混乱なく給水活動が実施できました。

グループを挙げて成長へ邁進

TOMOEGAWA では経営戦略本部を統括部門として、グループ各社が一体となるべく情報の共有や連携を深めています。各社の代表者や実務担当者が一堂に会して接することで、綿密なコミュニケーションを図るとともに、各社の取り組みの紹介や横展開を積極的に推進しています。



目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

事業概要

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ 人財育成
- ▶ 頑張る社員を応援
- ▶ 安全・防災・BCP
- ▶ 品質保証体制
- ▶ 地域社会貢献
- ▶ **TOMOEGAWAグループの活動**

E 環境

G ガバナンス

その他

TOMOEGAWA グループとしての理念や方針、情報を共有

グループ会社とのコミュニケーション

当社は、当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するため 2016 年度に「グループ会社管理規程」を制定しました。経営戦略本部長をグループ会社の管理統括責任者としたうえで、リスクカテゴリーごとの責任部署によるリスク管理を行う体制を構築しています。

また、グループ内の表彰制度や各種研修の実施、情報提供など、グループ会社とコミュニケーションを図り、グループ会社における課題を把握し、必要な支援を行っています。



昌栄印刷(株)へのコンプライアンス研修 (2023年4月)

関係会社社長会

関係会社社長会とは、当社が国内外のグループ会社の全社長を招集し、原則年1回開催しているものです。TOMOEGAWA 社長方針や報告事項の伝達、関係会社からの連絡事項などを行っています。

2020 年度以降は、残念ながら新型コロナの影響で開催は見送っていますが、Web 会議などを通じコミュニケーションを図ってきました。2023 年度は 7 月に 4 年ぶりに対面で開催しました。

また、優れた業績を上げグループに貢献した関係会社に対し表彰を行い、その功績を称えています。2021 年度巴川映像科技(惠州)有限公司がトップオペレーションカンパニーを受賞しています。(2022 年 6 月に表彰)

国内経理担当者連絡会

国内関係会社経理担当者連絡会では、国内グループ会社の財務・経理担当者を一堂に集め、会計および決算・税務に関して、経理グループより説明を行っています。(2022 年度は Web 会議にて開催しました)

また、グループに係る方針や重要テーマについて、関連する部署からプレゼンを行うなど、情報の共有を図っています。電子帳簿保存法やインボイス制度について、当社経理グループから説明を行いました。

国内グループ会社の活動

日本理化製紙(株)

日本理化製紙では、環境省が中小企業も取り組みやすい環境経営システムとして策定した「エコアクション 21」に認証登録し、活動を行っています(認証番号 0002868)。

環境目標として、温室効果ガスの排出量削減活動、廃棄物排出量削減、排水の適切な管理、環境関連物質 / 化学物質の削減、環境配慮製品の販売を設定し対応しています。

環境配慮製品としては、環境にやさしい梱包用テープ「リカテープ」や園芸用結束テープ「リカセルフ」を販売しています。

年間活動は「環境経営レポート (<https://ea21.jp/list/pdfn/0002868.pdf>)」にて報告しています。



リカセルフ(自着紙)を使った誘引テープ



目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

事業概要

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ 人材育成
- ▶ 頑張る社員を応援
- ▶ 安全・防災・BCP
- ▶ 品質保証体制
- ▶ 地域社会貢献
- ▶ **TOMOEGAWAグループの活動**

E 環境

G ガバナンス

その他

国内グループ会社の活動

三和紙工(株)

三和紙工は、災害時における自治体や被災者の方々の負担軽減を目的に、軽量でコンパクトに収納できる大容量の飲料水用簡易水槽「フジコン」を全国の約70市町村へ販売しています。

2022年9月の台風15号の被災時には、TOMOEGAWA清水事業所にて被災した近隣地域に対して、工業用水の提供を行いました。その際に同社の「フジコン」を使用し、地域への生活用水の供給に貢献しています。(詳細は30Pをご覧ください)

各事業所の清掃活動など環境活動全般については、新型コロナウイルスの影響により、2021年度に引き続き活動を見合わせています。



フジコンを使用した近隣への工業用水の提供
(2022年9月)

三和紙工ホームページ「フジコン」URL
<http://www.sanwa-shiko.co.jp/product/fujikon.html>



昌栄印刷(株)

昌栄印刷では、2007年4月より「地域への環境保全に貢献する」を環境方針に掲げ、日頃お世話になっている近隣地域を快適に保つことができるよう、本社近隣桃谷公園の清掃活動、川崎工場周辺の清掃活動を継続的に実施しています。しかし、2020年度以降は新型コロナウイルスの影響により、清掃活動は見合わせています。

同社川崎工場では、2023年1月26日に「こども食堂支援自販機」の同工場内への設置を行いました。地域貢献の一環として、収益の一部を子供食堂を運営する地元のNPO法人に寄付します。

さまざまな「募金型自販機」を手掛ける大手飲料メーカーの呼びかけに応えたもので、工場近郊地区(川崎市宮前区)での自販機の設置は初めてのことから、地域新聞の「タウンニュース」にも紹介されました。



川崎工場に設置された
「こども食堂支援自販機」

「タウンニュース」にて紹介

昌栄印刷ホームページ
<https://www.shoei-printing.com/>



新巴川加工(株)

新巴川加工では、近年、製造・仕上部門の生産性向上に向け、さまざまなカイゼン活動に取り組み、成果を上げつつあります。(カイゼン活動の詳細は、特集ページ12Pをご覧ください)

また、事業部や技術本部と連携し、これまで顕在化していなかった設備や作業環境についてリスクを洗い出し、安全対策の実施や教育の推進など、職場環境の改善を強化しています。

さらに新入社員や、従業員に対しTOMOEGAWAコンプライアンス部門の協力を得て、コンプライアンス教育を実施しています。

巴川物流サービス(株)

2022年9月27日に巴川物流サービスは静岡県トラック協会より「特別表彰」を受賞しました。

今年度の安全運転コンクール参加企業約400社のうち表彰対象となった80社の中に選ばれる快挙となりました。

同社のドライバー1人ひとりが安全運転に対し高い意識を持ち続けたことで、自社が所有する全営業車両が3年間無事故・無違反の表彰基準を達成しています。

今後も無事故・無違反を継続し、お客様からお預かりしたお荷物を迅速・丁寧に輸送できるよう努めてまいります。



特別表彰を受けた物流サービス従業員(2022年12月17日)

目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

事業概要

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ 人材育成
- ▶ 頑張る社員を応援
- ▶ 安全・防災・BCP
- ▶ 品質保証体制
- ▶ 地域社会貢献
- ▶ TOMOEGAWAグループの活動

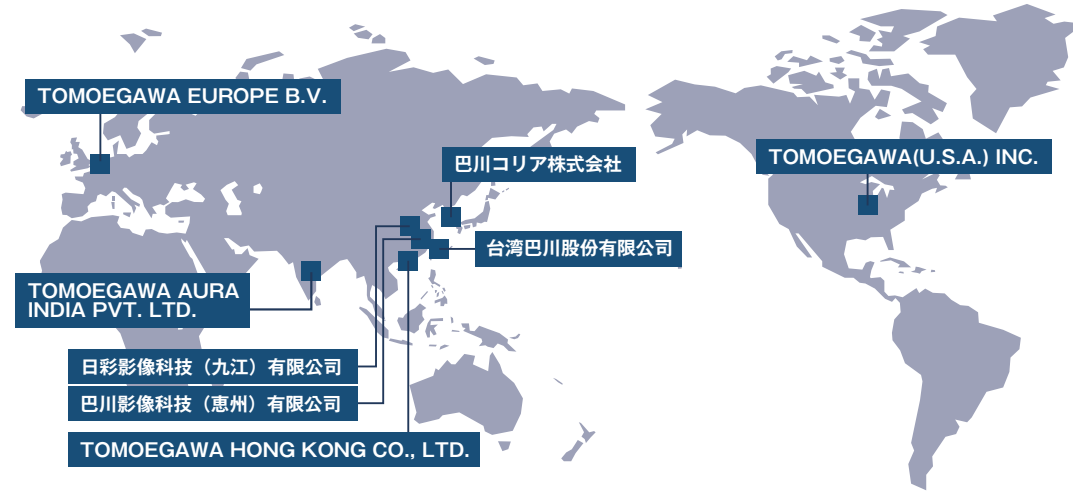
E 環境

G ガバナンス

その他

海外グループ会社の活動

TOMOEGAWA グループは、中華圏・米国・EU・東南アジア各地域に展開するグローバルな生産・販売体制の最適化を掲げ、ワールドワイドに事業を展開することで海外売上高の着実な伸長を実現し、成長戦略を軌道に乗せることを目標としています。



台湾巴川股份有限公司

台湾巴川股份有限公司は、電子部品材料の台湾及び周辺地域への販売支援を目的として設立されました。2013年に販売事務所を設立後、2015年から子会社（非連結対象）として現地法人を設立しています。

台湾には、台湾日本人会（台湾日本人會）という「会員相互の親睦と福祉の促進並びに日台親善」を目的として1961年に設立された団体があります。

台湾巴川は、高雄支部の法人部会に2年前から参加しています。日本人会高雄支部は、個人会員267名、法人会員101社と、台北市日本工商会法人会の1/5程の規模になります。支部には法人部会の他に総務安全、文化厚生、会報、学校運営など7つの委員会があり、各企業の役員や社員、日本人学校の先生、駐在員配偶者などが中心となって運営されています。

生活関連情報（防災マップ等の安全・緊急、芸術・文化・行事・現地交流）の共有やイベントが実施されます。

法人部会の活動の一つに、毎月、日本や台湾で活躍するさまざまな分野から講演者を招いて勉強会および懇親会が行われていて、経済以外に現地の歴史や文化、政治など多角的に学んで著名人と交流する機会があります。小さなコミュニティの中、法人部会の関りは大きく、企業・経済活動のためだけでなく、相互補助で少しでも現地を盛り上げられるよう参加しています。



会員月刊誌 高雄プレス

TOMOEGAWA AURA INDIA PVT. Ltd.

TOMOEGAWA AURA INDIA PVT. Ltd. は、インドでの電気絶縁紙生産の製造拠点として、生産性向上を高めてきました。工場のあるHyderabadは新型コロナの感染状況も落ち着き、操業を維持しています。2021年度に省エネルギーを目的として、建屋屋上に太陽光パネルを設置し、稼働を開始しています。

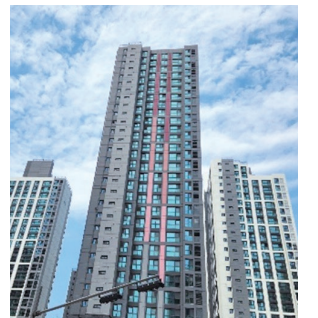


太陽光パネルの設置工事の様子

巴川コリア株式会社

巴川コリア株式会社は2006年12月に現地法人として設立されました。電子部品材料の韓国及び周辺地域への販売、マーケティング活動を行っています。現在、大手の半導体リードフレームメーカーや、光学ディスプレイ素材メーカーに材料を供給しており、顧客企業からは品質・サービス面において高い評価をいただいています。今後は、「iCas」製品の市場開拓のため、マーケティング活動を活発化させ、TOMOEGAWAグループに貢献したいと思っております。

2023年度のトピックとしては、3月に新しいビルに移転しました。心機一転、今後もお顧客と共に発展していく基盤を整えるため、実力向上に努めます。



巴川コリア(株)の新居ビル
(京畿道富川市)

※ iCas は株式会社巴川製紙所の登録商標です。

目次

マネジメント

特集「持続可能な成長に向けて」

事業概要

S 社会

- ▶ 製品・技術開発
- ▶ 人材育成
- ▶ 頑張る社員を応援
- ▶ 安全・防災・BCP
- ▶ 品質保証体制
- ▶ 地域社会貢献
- ▶ **TOMOEGAWAグループの活動**

E 環境

G ガバナンス

その他

海外グループ会社の活動

巴川（広州）国際貿易有限公司

巴川（広州）国際貿易有限公司は、TOMOEGAWA グループ製品の中国国内への販売を行っています。

巴川広州は、これまでは毎年春節前に広州市に集まり、前年の纏めと今年の目標などを話し合う Annual Meeting を行っていました。新型コロナの影響で暫く実施できませんでした。2023年に、徐々に Annual Meeting を開催することができました。初日はチームビルディングを行いチーム意識を高め、2日目は2022年の成果及び2023年に挑戦すべき内容について、認識を共有しました。本格的なチームビルディングは初めての経験で、日頃は見かけない仲間の一面も見え充実した取り組みとなりました。今年もチーム全員で協力し合い、仕事のレベルを高めていきます。



Annual Meeting (2023年3月11,12日)

巴川影像科技（惠州）有限公司

巴川影像科技（惠州）有限公司、は中国での複写機・プリンター用トナーの製造拠点です。新たな取り組みとしては、外部講習を招いてのコンプライアンス研修を実施しています。



コンプライアンス研修



全社員向け安全勉強会

TOMOEGAWA HONG KONG CO.,LTD.

TOMOEGAWA HONG KONG CO.,LTD. は、TOMOEGAWA グループ製品の中国国内及び周辺地域（台湾、香港、東南アジア、南アジア等）への販売を行っています。

2022年度まで新型コロナの影響による香港内の厳しい規制があり、通常の生活はもちろんのこと飲食店での会食にも人数制限がある状況でした。そのような環境下ではありましたが、社内の雰囲気・モチベーションアップの為に社内会議室での食事を実施したり、定期的な Web 会議を実施することで、社員一丸となり厳しい環境を乗り切ってきました。

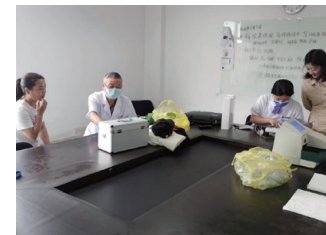
引き続き社員全員のモチベーションアップに繋がる様な職場環境を整えると同時に、TOMOEGAWA グループ製品の販売増に努めていきます。



食事会の様子

日彩影像科技（九江）有限公司

日彩影像科技（九江）有限公司は中国での複写機・プリンター用トナーの製造拠点です。巴川（惠州）と連携を取りながら、生産を行っています。



健康診断



安全生産知識コンテスト

TOMOEGAWA EUROPE B.V.

TOMOEGAWA EUROPE B.V. はヨーロッパでのTOMOEGAWA グループ製品の販売拠点です。

TOMOEGAWA (U.S.A) INC.

TOMOEGAWA (U.S.A) INC. は、米国およびその周辺地域へのTOMOEGAWA グループ製品の販売拠点です。



社内会議の様子

Close-up

コロナ禍がおちついた2023年2月には、トナー事業（パウダーテクノロジーカンパニー）において、各拠点の実務担当者を集め、研修会や親睦会などで交流を深めました。サプライチェーンやオペレーションなど、グローバルな課題についての共通認識を持ち、グループの結束を深める有意義な機会となりました。



グループ合同の研修会 (2023年2月)